

Ⅲ. まとめ

本校は昭和 61 年の開校以来、地域社会の生活・文化の発展と福祉の増進に寄与する人材を育成することを目的として教育活動を行い、毎年多くの医療従事者の輩出してきた。また、同時に社会の要求や学習環境の変化に応じ、教育内容の改善にも取り組んできた。

前回に引き続き今回、あらためて自己点検・自己評価を行う機会を持ち、これまで実施してきた本校の教育活動を項目ごとに詳細に分析した。その結果、いくつかの категорияにおいて改善を行うことで、より高度な教育活動の提供、さらなる質保証・向上につながる事が明らかになった。

全体を概観すると、第 9 回自己評価結果は令和 2 年度の評価に対して、おおむね向上している。

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症の状況によって、各科でオンライン講義やオンライン実習と移行することができた。令和 3 年度の課題として挙げられた項目は、①3 学科共通事項の学生による授業評価の実施、②研究・研修活動の成果報告ならびに予算計画の立案、の 2 項目であった。①については、各担当教員が、それぞれで作成したアンケートによって評価してはいるが、全体として統一されたものは作成されず、来年度以降に課題を持ち越すこととなった。②については、各教員が外部研修への参加し、全体への報告や研修成果の編纂も実施された。ただ、研究への取り組みは、今後の課題である。

更なる質保証・向上のために必要な事項を以下にまとめる。

- ① 3 学科共通事項の学生による授業評価の実施
- ② 研究活動の成果報告ならびに予算計画の立案

各学科とも専門職を育成する学科であり、独自性を発揮しているため合同で同一の課題に対して取り組むことは難しいが、定例会議や教職員会議、スタッフミーティング等、教育理念・目標について全教職員の認識を共有する機会が増えており、学科間の協力体制の強化と今後の課題の改善について話し合う環境が整っている。